

成果と課題 ～自分自身との向き合い方～

時が経つのは早いもので、10月9日（金）終業式を行いました。全校児童が一堂に会して、いつもとは違った雰囲気の中行われました。

私の話の中で子供たちに伝えたのは、4月からの半年でみんなの素敵なおところです。挨拶がしっかりとできること、話の聞き方がとても上手であること、大きくこの2つを挙げました。4月と比べると本当に素敵な姿がたくさん見られるようになったことはうれしいことです。1年の半分が終わった時点でできるようになったこと・もうちょっと頑張ってみようと思うことを考えてみようと思っかけてあります。

さて、子供たちが自分自身を振り返るときに多いのが、まずは、できなかったことを挙げることです。担任時代からずっと考えてきたことですが、なぜ課題を真っ先に口に出すのか…。もしかしたら我々大人の声かけにも要因はあるのかなと考えたことがあります。学校には様々な目標が掲げられています。「学校目標」「学年目標」「学級目標」「個人の目標」…などなど。普段の学校生活の中での行動で目標に立ち返ることが多いですが、何かできなかったときに立ち返ることが多かったように思います。

友達とけんかしてしまったということがあったとき、「学級目標はなんだっけ？みんなでなかよくだったよね」というように、課題について振り返ることが多かったように思います。すべてがこういった事例というわけではないですが。

子供への言葉かけについてはどうでしょう。誕生から、初めて言葉を発したとき、初めて立ったとき、歩けるようになったときなどなど、その都度、「すごいね、よくできたね！」と声をかけていたのではないのでしょうか。これが、保育園・幼稚園・小学校・中学校…と年齢があがり、成績表などをもらうようになってくると、「ここをもうちょっと・・・」と高みをめざす言葉が出てしまっていないのでしょうか。もちろん、たくさんのお褒めの言葉もかけていただいていることと思います。

子供たちが自分自身と向き合うとき、まずは、「ここが良かった」「これができるようになった」ということが出てくるように、学校では支援していきたいと考えています。

先日、ノーベル化学賞を受賞した「碓合憲三さん」はインタビューの中でこんなお話をされていました。「研究を続けていく中で、楽しかったこと苦しかったはたくさんあった。でも苦しかったことはあまり覚えていない。新しい事実を見つけることが楽しかったから」

できないこと・苦しいことは、これからも出てくるのが在るかもしれませんが、碓合さんのように、新しいことを見つけることに喜びを見いだせるように、自分自身のできることをさらに伸ばして、様々なことに挑戦できる心を培っていけるように、全力で支援していきます。

昨日から後期が始まりました。元気いっぱいの子供たちに囲まれ、さらに気合が入ります。後期も引き続き、保護者の皆様、地域の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。